



活用事例

橋梁・支援技術

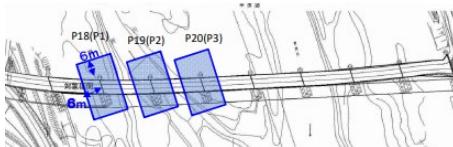
- 橋長 : 355.9m、幅員 : 11.3m
- 橋梁形式 : 8径間連続合成鋼桁橋
- 対象部位・部材 : P18, 19, 20橋脚 基礎
- 性能力タログ(又はNETIS)番号
: BR010041-V0224
- ☆[性能力タログへのリンク](#)



位置図及び側面図



側面図



: 点検対象範囲

○点検支援技術の効果

- ・プロペラが上についているため、推進が比較的に浅い場所でも実施できる。
- ・従来技術と比べて、人が潜るなどの作業が発生しないため、点検の安全性が向上する。
- ・高所作業がなくなり、点検員の安全性が向上する。

○近接目視と同等と判断した理由

- ・水上部より、様々な方向から河床形状を観察できる。
- ・人力と同様、基礎や河床形状観測と縦横断図の作成ができる。

○使用時の留意事項

- ・流量及び流速などで作業の実施判断が必要となる。
- ・着水場所及び電波通信距離などから対象箇所を選定必要。



写真-1 ドローン本体写真



写真-2 着水時推進確認作業状況



写真-3 ドローン操作作業状況

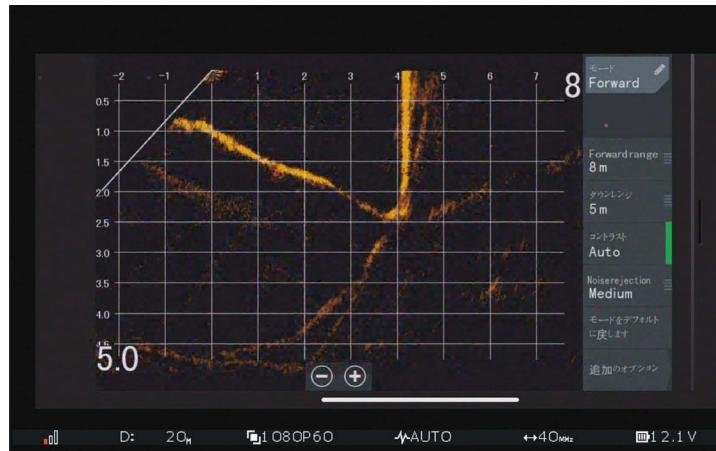
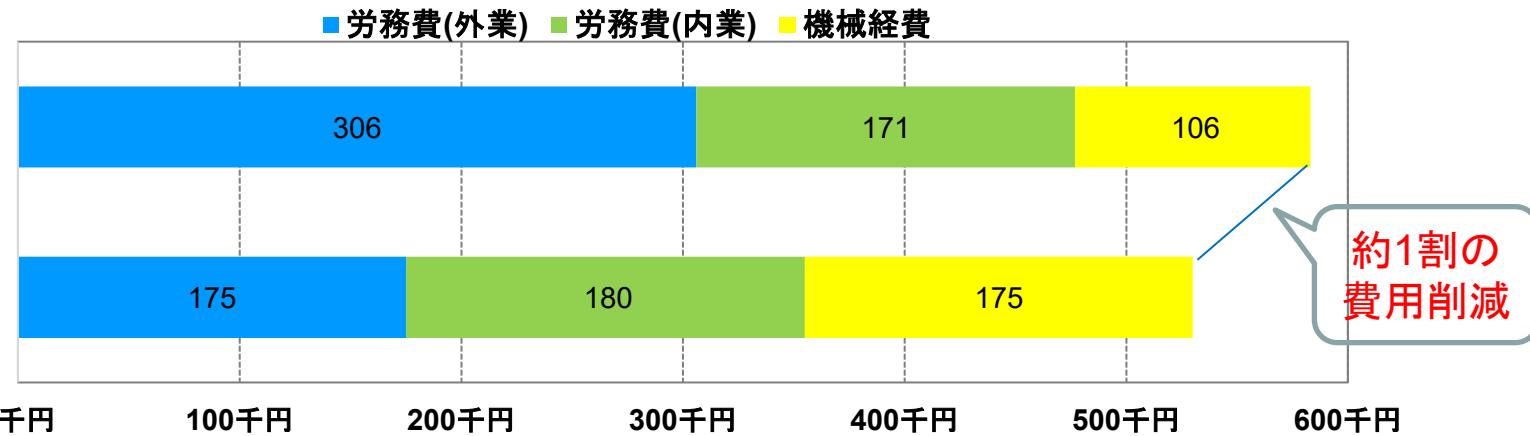


写真-4 橋脚ソナー画像

コスト比較

比較条件: 橋脚の洗堀を調査したときと比較。

評価: 従来技術と比べ、外業のコストダウンに寄与。



項目	従来技術	点検支援技術
外業	潜水士	ドローンによるソナー調査
内業	測定写真整理 縦横断図作成	画像分析・ 点検調書作成
比較対象	潜水士	ボート型ドローン
合計金額	583千円	530千円
工程	2日	1日

○諸条件

点検箇所: 3基橋脚基部
天候: 晴れ
対象部位・部材: P18, 19, 20
進入路: 有り
点検時間: 9:00~17:00
たたき落とし作業: 無し
積算: 業者見積もり
前回の健全度: II判定